

日本共産党 2020年11月 No.76

さがみはら市議団ニュース

編集・発行●日本共産党相模原市議団 相模原市中央区中央2-11-15 (市役所内)
電話：042-769-8314 FAX：042-754-7696

市議団HP <http://www.jcp-sagamihara.net> メール info@jcp-sagamihara.net

ご意見・ご相談は市議団へ

緑区

中央区

南区



田所健太郎
070(5432)7613



松永ちか子
090(7840)1418



今宮ゆうき
090(7175)1984



羽生田がく
080(1458)2222

新型コロナウイルス感染症対策の強化を

日本共産党市議団は9月定例会議の代表質問で、新型コロナウイルス感染症の対応について、PCR検査の抜本的拡充やエッセンシャルワーカーの定期検査の実施、インフルエンザ予防接種の助成拡大を求めました。

PCR検査の抜本的拡充を

緊急事態宣言が出された時以上に感染が広がり、若い人の間で、軽症や無症状の感染者が増えています。厚生労働省は、8月7日に「PCR等の検査体制のさらなる強化について」という事務連絡を自治体に出して、検査を増やす取り組みを進めるよう求めています。

事務連絡では、大学や医療機関のPCR検査機器の活用や唾液検査の促進、医療機関との行政検査の契約締結の促進、院内・施設内感染対策の強化などを求めています。これを受けての市の対応を質問しました。市は「更なる感染拡大に備え、医療関係団体と連携して、検体採取が行える医療機関の確保に努める」と答弁しました。

エッセンシャルワーカーの定期検査実施を

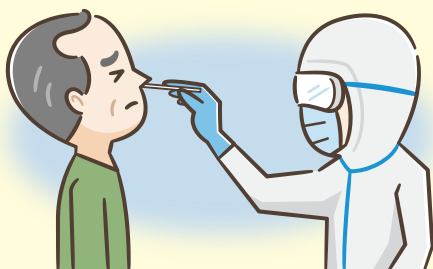


また、医療機関や介護施設、福祉施設など、集団感染のリスクが高い施設に勤務するエッセンシャルワーカー(*)と施設に出入りする業者の定期検査を求めました。

これに対して市は「検体を採取する医療機関や検査機関、保健所などに負荷がかかるほか、公費負担の増大などの課題がある」と答弁し、実施に向けた前向きな答弁はありませんでした。

国では、8月18日、9月15日にも事務連絡を出し、検査体制の拡充を求めている、クラスターが発生した地域での定期検査は可能としています。

集団感染のリスクが高い施設で、集団感染が発生した場合、大規模なクラスターになる可能性もあります。今後もエッセンシャルワーカーなどの定期検査の実施などPCR検査の拡充を求め、取り組んでいきます。



※エッセンシャルワーカー
医療、介護、保育等の他、社会を支える必要不可欠な仕事に従事している人たちのこと

インフルエンザ予防接種の助成、65歳以上は無料、未就学児は1,500円に

今年の冬は、季節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の同時流行が危惧されています。

日本共産党市議団は代表質問で、発熱患者を減らし、医療機関の混乱を避けるために、インフルエンザ予防接種の助成対象を拡大することを求めました。

その結果、県の助成と合わせて、65歳以上の高齢者は無料に、これまで助成の対象外の生後6か月から6歳までの未就学児は、1回1,500円となり、対象が拡大されました。

新型コロナウイルス感染症の対応に関する緊急要望書を提出

10月下旬の市内2病院でのクラスター発生を受け、10月30日、本村市長に4項目の緊急要望書を提出しました。

- 1、医療機関や高齢者施設等で働く方、入院、入所者全員を対象とした一斉・定期的な検査と地域の関係者を幅広く検査すること
- 2、エッセンシャルワーカーへの定期的PCR検査の実施など社会的検査の実施について検討を進めること
- 3、感染者を保護(隔離)するための病床、宿泊療養施設の確保と追跡調査に必要な保健所の体制強化を図ること
- 4、検査に要する費用は全額国庫負担とするよう、国に強く要望すること

